

【伊吹山自然再生協議会】第2回協議会議事要旨

日 時 平成20年7月9日(水) 13:30 ~ 16:30

会 場 米原市役所 伊吹庁舎

出席者 村瀬会長、須藤委員、溝口委員、柴田委員、吉田委員、犬飼委員、中山委員、佐藤委員、高橋委員、森委員、藤井委員、筒井委員、宗宮委員、浅井委員、茶谷委員、本間委員、須田委員、池田委員、北川委員、松岡委員、熊倉委員、山田委員、膽吹委員、児島委員、田中委員、要石委員 (26名)

*出席者には一部代理出席を含む。

1. 伊吹山自然再生の目標

事務局から伊吹山自然再生の目標(案)を説明し協議を行った結果、一部修正を行った上で了承された。

2. 議事

(伊吹山自然再生の目標)

<全体的に>

- ・お花畑は江戸以降採草で管理された二次的な自然が大半を占めていたが、場所により風衝地の自然草原が残っていると思われる。現在ススキ群落、低木群落、外来種などが侵入してきている。
- ・人が手を加えない場合どのようなようになるか推測すべき。
- ・目標は原生的な自然よりも二次的な自然を目指すべきと考える。
- ・伊吹山は種類が多く多様だ。手の加える範囲を限定して山野草を再生し、その他は原生自然に戻してはどうか。緩やかなゾーニングをして分けてはどうか。
- ・100%管理されたものは自然ではないと思う。自然本来の持っている力を人間が間接的に手助けしているのが自然再生と考えている。自然の価値として、生物多様性が価値があると考えており、その為に自然再生を行いたい。
- ・伊吹らしさを絵で描いたら表現こそ違うが、概ね同じと思う。二次的自然の程度が異なるだけではないか。昭和40年以降変化が大きくなったので自然再生で元に戻すと理解している。
- ・優れた自然環境、自然景観を保全、再生し、持続的に活用することを目標とするこの理由として「後世に伝えていくために」を追加してはどうか。

お花畑の維持・復元等

- ・元々山頂部は、薬草採取により維持されているが、採草が行われなくなってから遷移が進んだと思う。伊吹山は薬草を身近に感じる里山であり、薬草の山としても考えられないのか。薬草の山であれば、地元の人を受け入れられるのではないか。
- ・伊吹山らしい花の群落をできるだけ良い状態で残したい。

優れた自然景観の維持・創出

- ・石灰石はセメントやガラス、鉄鋼製造等に利用されている重要な資源であり、伊吹山は質、量ともに国内有数の石灰石鉱床と言える。採掘による形状変更は、水平な面を一段、一段掘り下げるという現在最も安全な採掘工法を採用しているためである。一段の採掘が終わるたびに背後の壁を緑化しているので、採掘によって発生する裸地面積は変わらない。この途中の形状については、" 鉱山のある風景 " として県民の皆様に広く受け容れていただきたいと願っている。
- ・鉱山の跡地利用として薬草の里にするのも一案だ。
- ・滋賀産伊吹鉱山の採掘は現在 60 万 t/年で最盛期の 1/5 である。近江産弥高鉱山は 25 万 t/年である。
- ・景観の問題以外に、採掘地縁ではカモシカ等の多様な生物が生息している。採掘地のすぐ隣に豊かな森林があるためと考えられる。
- ・地元以外にも多くの人に見て貰うのも一つの方法だ。また、企業の PR として年一度でも良いので鉱山の現状を知って貰うイベント等を行っても良いのでは。
- ・「既に開発がされている採石場」の表現では、現在開発が進んでいる場所を含まないことになるのでは。

地域ぐるみで伊吹山エコツーリズムの確立

- ・本来のエコツーリズムとは、自然の保全とそれを生かしたツーリズムなので、マスツーリズムにならないようにしてほしい。
- ・地元からの要望で、登山道の整備が必要。ハードである施設整備も必要ではないか。
- ・地域、地元、エコツーリズムについて整理した方が良いのではないか。
- ・自然だけではだめで、地元の利益も必要で利用者から負担金等を取ってはどうか。
- ・米原市が作成した（地域を博物館とした構想である）エコミュージアム構想も参考にしてみよう。

その他

- ・検討対象として山麓の住友大阪セメント工場跡地での事業活動などについても含めるべきとの意見があったが、再生協議会では検討の対象にしないこととなった。